

医者

# 穴の空いたジオード

P.N モリヤ

(森田沙彩)

人  
物

藤沢有希（35）美容外科医

岩波穂（16）有希の患者

星野架純（16）高校生

岩波百佳（46）主婦

看護師

教師

○有希美容外科クリニック・外観

○同・オペ室

麻酔で眠っている、患者。

手術着を着ている、藤沢有希（35）。

1

周りには手術着を着た助手。

有希「じゃ、胸に詰めるもの詰めてパパッと

終わらせるよー」

と、メスで胸の脇下を切る、有希。

苦笑いする、助手。

○同・診察室

全身鏡を見ながら胸の形を確認している、笑顔の患者。

それを見ている有希と看護師。

患者「理想通りの形！さすが先生」

有希「そりゃあね。また何かあったら来て」

患者、頷き、出ていく。

看護師「顔に火傷があった人ですよ。ほん

と、綺麗に直しましたね」

2

有希「お釈迦しゃか様の教えの、『生老病死しょうろうびょうし』って知  
ってる？」

看護師「いえ全然」

有希「生きる苦しみ、衰える苦しみ、病気の  
苦しみ、死の苦しみ」

看護師「うわ、苦しみばかり」

有希「医師は病気と死に向き合い、私達、美  
容外科は、老いと生きる苦しみに向き合う」

有希、カルテに貼られた顔に火傷の跡  
がある患者の写真を見ながら、

有希「そこに優劣はない。ただ人の苦悩に寄  
り添うものなんだよ」

○穂の家・外観（朝）

○同・穂の部屋（朝）

制服姿で化粧に苦戦している、岩波穂  
（16）。アイプチに失敗し、瞼が歪。

穂、ため息。押し入れを開ける。

メイク落としを取る。

脇にPCとヘッドフォンが無造作に置かれていた。

穂、後ろ髪を引かれながらも、閉める。

○星稜せいりょう高校・外観

○同・教室

中に入って来る穂、席に着く。

少し離れた席に座っている星野架純かすみ

(16)。友達と穂を見ながらクスクス笑っている。

架純、穂に近づき、

架純「ね、それ、アイプチ？」

穂、慌てて俯く。

架純「もしかしてこの間言った、目つき悪いっての、気にしてる？ごめんね」

穂、袖を握りながら、

穂「私も、そう思ってたから」

架純「ならさ、整形してみたら？私も二重にしたんだよ。分からないでしょ」

穂「え」

と、架純を見る。

架純「アイプチなんてやめてさ。二重にしよ  
うよ。二重仲間」

穂「仲間」

穂、架純の綺麗な二重を見ている。

○有希美容外科クリニック・診察室

不安そうな顔の穂と岩波百佳（46）。

向かいに白衣姿の有希。

有希「それで二重にしたいと」

百佳「私はこのままでも十分可愛いけど」

穂「お母さんは良くても、私は嫌なの」

有希「一重で生きて行くのも二重で生きて行

くのも、穂さんの自由です。それに、二重  
にすると開閉が楽で視界が良くなるんです」

百佳「そ、そうなんですか」

穂、決意した顔で、

穂「やります」

有希、笑顔で頷く。

○星稜せいりょう高校・教室

綺麗な二重で化粧をした穂が入って来る。架純、その姿を見て笑顔で近づく。

架純「やったんだ！めっちゃ綺麗！」

穂「こんなに、変わるんだね」

架純「そうだよ！もっと綺麗になろう。美容

仲間誕生ー！」

穂、照れくさそうに微笑む。

架純「あ、これ。理想の自分に近づけるかも」

と、スマホを見せる。

首を傾げ、覗き込む、穂。

○有希美容外科クリニック・診察室

カルテを看護師に渡す、有希。

看護師「良かったですか。二重手術。まだ

高校生ですよ？」

有希「うん？あー、ね」

看護師「ねって」

有希「最近はルッキズムが酷い。でしょ」

看護師「簡単に整形了承するの、どうかと思

いますよ。患者さんに言えませんが」

有希「そうだけどさ。悲しむ顔は減らしたい。

笑顔でここを出ていく姿、見たいでしょ」

看護師「そうですけど」

有希「最近は何でも早いし、既読もみれる。

便利の代償は、心の豊かさなのかね」

○星稜せいりょう高校・教室

教師が書類を配っている。

教師「体育祭のダンス曲、候補書いて提出」

穂、『体育祭ダンス希望曲』の紙をジツ

とみるがハツとしグシヤグシヤにする。

○穂の家・穂の部屋（夜）

スマホの画面には穂の目元だけの写真

と『アイメイク上手くいった』。

いいね数と『二重綺麗』『裏山』のコメ

ント。笑顔になる、穂。

アルバムを開く。画像処理された目が

大きく、顎が細い、穂の顔写真。

穂、鏡を見て顎を触る。

○同・リビング（夜）

料理をしている百佳、驚愕のまなざしを、頭を下げている穂へ。

百佳「顎を整形したい！？」

穂「もっと楽しく過ごせる気がするの」

百佳、大きなため息。

百佳「この間のは視界も良くなるし、美容だけじゃないから許可したの。もう十分」

穂「綺麗になったら人気者だし、モテるよ！」

百佳「今のままでも十分可愛い。見た目だけに惑わされちゃだめ」

穂「それ、お母さんの時代はでしょ！今はそうはいかないんだよ！」

と、出ていく。

○菓膳料理店・出入口（夜）

看板を満面の笑みで見上げる、有希、胸をはり、ドアノブに手を伸ばす。

穂の声「あの！」

振り返る、有希。息を切らした穂の姿。

穂「あの、整形、親の同意なしに出来ますか？」

有希、首裏を掻き、

有希「あー、ごめんね。プライベートは大切にしたいから。クリニックに来て」

穂「顎を削りたいんです。先生なら綺麗にできますよね。ダメなら他行きます」

有希、ため息。

○同・店内（夜）

薬膳料理を食べている、有希。

向かいに料理を前に戸惑う、穂。

有希「ほら、食べて」

穂「でも」

有希「1人で帰すわけに行かないでしょ」

穂「先生は、私を問題児扱い、しますか？」

有希、考える素振りをして、

有希「人の内側って見たことある？って医者じゃないから見ないか」

穂「内側？」

有希「例えば、豊胸手術で脇にメスをいれるとする。まず、何が見えると思う？」

と、丸焼きの鶏にナイフを向ける。

穂「…筋肉？」

有希「ナイフで横一文字に切る。」

有希「何も見えない。真っ暗」

穂、切られた隙間を見る。真っ暗。

有希「光を当てると筋肉も骨も分かるけどね。」

誰しも皮一枚隔てた中は、暗闇なんだよ」

穂「暗闇」

有希「どんなに美人でも、中は光が入らない

暗闇。外見はどうにでもなるのにね」

穂、俯き、

穂「…中学の頃から作曲が好きで。でも、高

校はみんな大人っぽくて。私、子供っぽい」

有希「凄いいじゃん。曲を披露する場所ないの？」

穂「ありますけど。みんな興味ないですよ」

有希「私は興味あるけどな。どんな音を奏で

るのか。穂さんの内側から出る魅力だよ」

穂、ハッと有希を見る。頷く、有希。

○穂の家・穂の部屋（夜）

押し入れからPCとヘッドフォンを出す、穂。作業を始める。

○星稜高校・職員室

スマホ片手に教師の元へ向かう、穂。

穂「体育祭の曲、まだ希望出せますか？」

教師「ん？ああ」

穂、スマホを差し出す。

○有希美容外科クリニック・診察室

カルテを見ている、有希。

看護師、有希にUSBメモリを渡す。

看護師「岩波さんから。ありがとうって」

有希、首を傾げながら、PCにさし、

ファイルを開く。再生ボタンを押すと

音楽が流れる。

徐々に笑顔になる、有希。

